

議 事 録

公開・一部公開・非公開			非公開 部 分 理 由		
			文書管理責任者	保存期間	30 () ・ 10 ・ 5 ・ 3 ・ 1 ・ 随
				作成日	令和4年3月30日(水)
部長	課長	課長補佐	係長	係	記録者所 東御市公共交通活性化協議会
					職・氏名 副主幹 大塚 しのぶ 印

会議等の名称	令和3年度 第5回東御市公共交通活性化協議会	開催日時	令和4年3月30日(水) 午前 10時 00分～ 午前 12時 30分
		場 所	東御市本庁舎 2階全員協議会室
主催者(事務局)	東御市公共交通活性化協議会事務局（商工観光課）	司会者	
出席者	高澤 陽(オンライン)、小林 伸行(代理)(オンライン)、甘利 善一(代理)(オンライン)、 小林 靖典、井出 進一、小林 直樹、阿部 貴代枝、荻原 輝久、唐澤 光章、寺嶋 あい子、 倉寫 智彦、坂口 永一、関野 エリ、平林 千秋、峯村 文博、清水 初太郎、猿谷 巖、 加藤 英人、宮原 剛士、勝亦 達夫、白鳥 明、篠原 敏夫、小林 義忠、松葉 和彦、 両川 博之、松井 道夫(オンライン)、瀬下 澄仁 事務局：深井 芳信、山浦 晃隆、荒井 宗武、大塚 しのぶ、小林 裕次、永島 美典、渡邊 亮太、 山邊 修、土屋 岳史		
欠席者	荒井 信吾、清水 孝二、饗場 薫、伊藤 隆也、小川原 章子、青木 豊英、中島 健彦、 佐藤 勝		

議 題	(議題) (配布資料) <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通に関するアンケート調査結果等の結果の共有と 資料No. 1 今後の公共交通の方向性に関する意見募集の結果について ・ AI活用型オンデマンド交通運行シミュレーションの結果について 資料No. 2 ・ 令和3年度東御市公共交通活性化協議会事業報告について 資料No. 3 ・ 令和3年度東御市公共交通活性化協議会決算見込みについて 資料No. 4 ・ 令和4年度東御市公共交通活性化協議会事業計画(案)の承認につ 資料No. 5 いて ・ 令和4年度東御市公共交通活性化協議会予算(案)の承認について 資料No. 6 ・ 今後のスケジュールについて 資料No. 7
決定事項 (要点を箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度東御市公共交通活性化協議会事業計画(案)の承認 ・ 令和4年度東御市公共交通活性化協議会予算(案)の承認
次回への検討	

事項		
次回開催	(日時) 令和4年 5月 13日 午前 10時 00分から (場所) 東御市本庁舎2階全員協議会室	
討議内容及び経過	(発言者名)	(発言内容)
1 開 会	深井事務局長	
2 あいさつ	瀬下会長	
3 協議事項		
(1) 公共交通に関するアンケート調査結果等の結果の共有と今後の公共交通の方向性に関する意見募集の結果について	事務局	資料No. 1について説明
		■質疑応答・意見
	関野委員	とうみレッツ号はすべての方に門戸を開いているとのことであるが早朝に
		運行がないなど、学生などが使えるものではない。そのような状況で門戸
		が開いていると言い切るのはどうなのか疑問を感じる。
	事務局	使い勝手が悪いという市民の声やアンケートでも回答を頂いている。とう
		みレッツ号の運行時間を、もう少し早い時間から遅い時間までにという意
		見もある。定時定路線バスについても、バス停が欲しいなどの意見がある。
		これらを踏まえて、これから皆様方と一緒により使い勝手が良いものを考
		えていくということで理解いただきたい。
	関野委員	デマンドバスの運行時間が変わる可能性もあるということか。
	事務局	もちろんある。この協議会で意見をいただきたい。
	瀬下会長	平成18年デマンド交通の発足時に、定時定路線バス、とうみレッツ号の2
		本柱でいくという考えであったが、運行時間の変更についても必要があれば、今回の見直しの中で手を加えていくということである。
	平林委員	アンケートでは、様々な方面から得た意見を整理して皆さんから意見を得
	ようということで期待をしていたが、別冊の資料の文面では少しニュア	
	スが違う。多くの市民が移動に不自由をしていないという回答結果があり、	
	これに対してデマンド交通の運行形態を見直すことで解決するとあるが、	
	交通手段を持たない方の対応が大事であることが浮かび上がったというこ	
	とである。子供の移動手段の確保など、対応すべき課題は様々ある。結	
	論的な方向ではなく新たな課題点も含めて協議を重ね、よりよい結論を出	
	すべきである。	
瀬下会長	意見として承るということで良いか。	
平林委員	市では、アンケート結果から、多くの人が移動に不自由をしていないこと	
	を結論に物事を進めようとしている。今後の協議会の運営にも関わる問題	

	ではないか。委員の皆様から感じたことがあれば伺いたい。	
瀬下会長	アンケートの結果の解釈の問題であるが、事務局から何かあるか。	
事務局	第3回協議会の中でいくつかのアンケート結果を示している。方法については第3回協議会で説明した通りであり、高齢者や保護者には広く意見を求めている。回答結果からは、地方特有の免許保有者が多く、高齢でも移動ができる傾向がみられる。移動に常に不自由している、または時々不自由している割合は、高齢者アンケートで7%、保護者アンケートでは2%となっており、この結果をもとにしている。結論ありきではないかということだが、アンケートの回答も踏まえて、デマンド交通の運行を工夫する、時間帯を変更する、運用方法を見直す、また、定時定路線バスの運行時間、経路の見直しにテーマを置く必要があると考えている。	
瀬下会長	本来なら具体的なものを示し、懇談会を重ねての意見聴取が事務局の方にあったようだが、こういった状況なので（やむを得ない）。委員会の中で意見をいただければと思う。	
松葉委員	デマンド交通のAI技術の導入ということだが、検討材料があれば教えていただきたい。	
事務局	協議事項（2）に挙げている。前回の協議会でもスマホで予約や呼んだらすぐ来るシステムがあってもよいのではないかという意見があり、12月以降AI活用型シミュレーションを行っている。こちらの報告をこの後に行う。	
倉冨委員	塩尻市の公共交通を視察し、AI活用型デマンド交通ということで試乗した。ドライバーの話では、AIの指示通りに動くと5分で行けるところが20分かかるとのことであった。スマホで予約しても客がグループで乗る場合、1～2人が取り残され、30～40分待たなければならない問題があり、結局はドライバーの操作となるということである。AIも良いが、問題も多いと感じた。	
瀬下会長	視察をした中での感想ということで承った。	
(2) AI活用型オンデマンド交通運行シミュレーションの結果について	事業者	資料No. 2について説明 ■質疑応答・意見
	平林委員	総じていえば効率化できるという結論で良いか。
事務局	その通りである。	
平林委員	資料の中で、待ち時間が38分減少とあるが、この点について説明してもらいたい。予約にも様々なケースがあるため、この根拠が知りたい。乗車時間が平均34分減少するとの説明についても、今のデマンド交通の設定時間30分と比較すると矛盾を感じる。また、増幅データの結果を見ると、乗	

	車時間と降車時間に1時間の差異があるがなぜなのか。
事務局	待ち時間や乗車時間に関する記述は増幅データに関するものである。現行では30分前までの予約であるという前提で効果を検証している。また、現行サービスでは、乗り継ぎが必要となる場合、待ち時間を含めて最長で1時間かかるものが短縮されるということである。
平林委員	目的地に短時間で行けるようになるということが良いか。
事務局	多くのデータから全件をまとめると、平均時間の短縮となっている。
瀬下会長	現行システムでは、方面ごとに運行しており運行時間も決まっている。乗降場所によっては一度田中駅での乗り継ぎが必要となり、最長1時間を要することとなる。AIのシミュレーションでは、車両が自由に走行しており、効率が良く人を乗せ目的地へ運んでいる。さらに負荷をかけるため、申し込みを1.5倍としたケースにおいても、申し込み時点で付近に空いている車があれば乗車可能であるため、時間、台数の縮減になるという結果を示した。ただし、必ずしも全てが時間短縮となるわけではなく、直前の予約では今よりも時間がかかる可能性はある。しかしながら、24時間スマートフォンから予約が可能であるので、解決はできると思われる。
阿部委員	現状では運行範囲が決められているが、AIを導入したシミュレーションでは自由に動けるようになっているということか。
事務局	その通りである。
阿部委員	車両の縮減も検討されているが、実現可能なのか。
事業者	乗車時間は現行とほぼ同等の水準で全ての方が乗車できる結果となっている。
瀬下会長	塩尻市においても同様の運行が行われており、同時に何台も車両が走行している。予約が入った際に、どのように回れば効率的に運行できるのかをAIが判断している。
小林(直)委員	事前に予約がなければ乗れないということか。
事業者	予約が無ければ乗車することはできない。予約をした時点から乗車可能な最短時刻をシステムが提示することになり、待ち時間はその時の需要量に応じて変化する。
関野委員	利便性が向上することで利用者が増加する可能性も考えられる。利用者が増加した場合の想定はしているのか。
事業者	負荷検証において、車両台数は現行のままで利用を1.5倍にした条件でもシミュレーションを行っており、迎えに行くまでの時間は現行と同等のレベルとなっている。
勝亦委員	3点質問したい。例えば9時30分以前のシミュレーションを行いたい場合は、実績データがないと運行シミュレーションできないのか。また、悪天

	時や渋滞発生時などのイレギュラーな状況においてシミュレーション結果は変化するのか。他に、現行よりも待ち時間が増えるケースもあるということだが、効率をよくするためにはどのようなことを検討すべきなのか。
事業者	1点目について、シミュレーションを行うにあたって実績は必ずしも必要ではなく、架空のデータを作成すれば可能である。2点目について、時刻や実際の交通情報を加味してシミュレーションを行っている。3点目の待ち時間の縮減については、様々な方法が考えられるが、近くの利用者の乗降場を共通にすることなどが挙げられる。
松葉委員	当日の工事や渋滞などの状況もリアルタイムで対応できるのか。
事業者	シミュレーションで加味する渋滞情報については、当日の情報ではなく、これまでのデータをもとに計算している。そのため、当日の工事等は考慮することはできない。
松葉委員	軽井沢では、JRと西武HDがMaaSの取り組みでデマンド交通を行っているが、時間が区切られているため、ドライバーがスピードを出さざるを得ない状況となっている。そういったことも加味して計算しているのか。
事業者	通学時間のみ規制がかかっているような場所もあると思うが、現状では考慮することができていない。このような問題については対応を検討していく。
小林(直)委員	車両の大きさを教えて頂きたい。
事務局	資料No. 2の5ページに掲載している通り、定員9名の車両が6台、定員4名の車両が1台でシミュレーションを行っている。
倉嶋委員	視察をした塩尻市の公共交通が印象に残っている。塩尻市でも大型二種免許を保有している人が少ないとのことであった。RIDE'Nについても中型や小型であれば運転手がいるのではないかと。塩尻市のようにサインポールという小さなバス停のようなものが各所にある方が効率は良いのかもしれない。あつてシミュレーション結果は参考にはなると思うが、それにこだわらず過去のRIDE'NにAIをつけるなど、多様なものが運行していても良いのではないかと。まちのタクシーのように手を挙げて止まるものであってほしいと思う。
勝亦委員	オンデマンドが進むとそれだけの印象になってしまうが、鉄道や路線バスとの接続を考慮したシミュレーションも可能なのか。
事業者	単体で行うことは難しい。鉄道事業者やバス事業者との協議をしたうえでシミュレーションをする必要があると考えている。
事務局	資料No. 3について説明

(3) 令和3年度東御市公共交通活性化

化協議会事業報告
について
(4) 令和3年度東
御市公共交通活性
化協議会決算見込
みについて

事務局	資料No. 4 について説明
	■ 質疑応答・意見
寺嶋委員	意見募集の実施については、市報には載っていたが、知らない方も多かった。回覧板に掲載するなど広く市民に知れ渡るよう考えていただきたい。
瀬下会長	事務局は今後の参考とするように。
平林委員	eバイクの拡充に関して、事業変更をする時は詳しい資料を提供していただきたい。関連して、令和4年度は市の事業としても800万円の予算でレンタサイクル事業を行うようだが、その関係はどのようになっているのか。また、eバイクの一般会計の原資は何か。また、事業を始めると継続性を求められるが、採算性はどうか。また、令和5年度以降の見通しはどうか。
事務局	当協議会でレンタサイクルの実証実験を行い、同時にアンケート調査も行った。その結果、eバイクで遠くまで行けるということであり、期待をされていることから拡充を考えた。事業費について承認をいただいたが、この資金についてはあくまでも協議会の会計であり、市の一般財源から出ているものである。800万円という金額については、新型コロナウイルスの特例交付金を使った観光客の誘客を図るものである。当協議会で行う事業については観光二次交通を担うものということで棲み分けをして考えなければいけない。しかしながら、行きつく先はレンタサイクルの拡充ということになり、共有、共同で進めていく。今回独自のシステム開発を行う予定であったが、すでに導入している上田市、千曲市の既存のシェアサイクルシステムに合わせることで、将来的に広域的な連携も考えられる。
平林委員	利便性については承知したが、どれだけの需要があるのかを以前質問をしたところ、上田の方では利用が増加しているとの回答であった。協議会で10台、市で15台を新たに導入することだが、事業として成り立つのか。事業についての方向性を見据えたうえで運営していくことを検討していただきたい。
事務局	レンタサイクルの需要についてであるが、観光協会で行っているレンタサイクル事業の実績は、令和元年度は252人、令和2年度は308人、令和3年度は1月までの状況で366人とすでに2年前の実績を上回っている。この実績から実証していきたいと考えている。
瀬下会長	市の予算で行う事業の収支については、本協議会で議論するものとは異なるため控えていただきたい。
平林委員	協議会で実施する実証実験を市の事業にも引き継いでいくかと思うので提案している。利便性は確かにあるが、果たして本当に事業として成り立つ

(5) 令和4年度東御市公共交通活性化協議会事業計画（案）の承認について
 (6) 令和4年度東御市公共交通活性化協議会予算（案）の承認について

	のか行政として考える必要がある。市で実施する事業についても反対意見もでてい
	る。行政としてきちんと向き合っ
瀬下会長	事務局は念頭に置いておくように。レンタサイクルのシステムについては、予約と料金徴収を一
	緒に行っており、料金収入を得ながら貸し出すことを考えているということ
	で良いか。
事務局	その通りである。
事務局	資料No. 5 について説明
事務局	資料No. 6 について説明
	■ 質疑応答・意見
平林委員	公共交通についての考え方も、交通権ということで基本的に人権になぞらえて策定するとい
	う新しい議論も定着している。本市で地域公共交通計画を作るうえでも、各地方での到達点を学んで生かしていく観点が必要にな
	るのではないか。次回の議論の中で全体の到達状況や地域の取組の方向等を示していただき、それを踏まえて十分議論にできるようにしていただ
	きたい。2点目として、資料No. 5の具体的な検討に示されている内容のた
	たき台のようなものを作成していただき、それをもとに議論をしたい。3点目として、計画策定の中で住民の参加と合意は必須と考える。ぜひ住民
	の声を聴き、それを計画に反映するというプロセスを設けていただきたい。住民の了解が得られていないと、実際に住民の利用が進まないということ
	になりかねない。4点目として、業務委託の内容として計画策定の検討に必要な資料の整理や分析等の委託とあるが、具体的に何を行うのか。
事務局	1点目の計画の到達状況について、この計画自体が、かつて民間事業者によって公共交通が賄われていたものを地域にあった形で公共交通を市町村
	単位で作っていくということが背景にある。特に到達点については示されておらず、地域に合った計画を作ることとされているが、計画に含めるべき内容は示されている。この点を踏まえて計画策定を進めていく。2点目のたたき台について、本年度の調査業務や実証実験の結果に基づいてたた
	き台を作成し、次回の協議会で提示し議論していただく予定である。3点目の住民参加について、各種アンケートや地区懇談会の代替で実施した意見募集から方向性は見えてきた。市民が何を期待しているのか、運用面の工夫をどのようにしていくのかを検討する。また、一定の案ができた段階で市民に示すことを考えている。4点目の業務委託内容について、アンケートの結果分析や目標設定等を専門的な面から手伝っていただく。他の地域の情報も持っているため、本市に合ったものを作るための助言や案を示

	していただく。
平林委員	まずは協議会で議論をし、それをもとに計画を作り上げていくプロセスが大事なのではないかと言っている。移動手段を持たない方にどういう風に移動手段を提供していくのか、それを具体化するための対応を議論し、仕上げていくというプロセスを大事にしたい。地域の人に愛される公共交通を作っていく、そこを考えたうえで事業計画を立てていただきたい。6月にパブリックコメントを実施予定とのことだが、それまでの短期間でできるのだろうか。
瀬下会長	活性化再生法の中で、協議会を組織し議論を行うことが計画策定のスキームとなっており、協議をいただいたものをパブリックコメントと同じ手法で市民の方の声を得るという段階は当然踏んでいく。できるだけ多くの方のご意見をいただけるよう、平林委員の意見をできるだけ反映できるように事務局は努めること。
瀬下会長	令和4年度の事業計画と予算案となるため、これについて委員の皆様へ承認いただけるか採決をさせていただきたい。承認いただける方は挙手をお願いしたい。
一同	（挙手多数）
瀬下会長	挙手多数のため承認とする。
(7) 今後のスケジュールについて	事務局
	資料No. 7について説明
	■質疑応答・意見
関野委員	パブリックコメントはどのように実施する予定なのか。パブリックコメントをやっていると広報等で見かけるが、実際、意見は数名しか出していないと思われる。知らないところでパブリックコメントがあっても困る。アンケートの回収率でも高校生は12%で保護者も4割以下である。統計学的に精度が高いとしている95%に達していない。アンケートに対して正しい評価とは言えない。これらをもとに進められても市民の声が反映されるとは思えない。例えば学校の授業の時間を借りて意見を求めることも考えられる。アンケートも地域が回収すればもっと回収率が上がったと思う。パブリックコメントをただやったというだけでは納得できない。今までも声は上がっていたと思うが、どのように反映していたのか。
事務局	パブリックコメントの実施手法について、市民の声をどの程度集約できるのかという意見もあった。まずパブリックコメントを実施していることを周知することが重要と考えている。市民の目に映りやすい場所にポストや計画書を設置している。また、足を運ばない方についてもHPで計画書をダ

	<p>ダウンロードできるようにしており、意見をHPからも受け付けている。実際に案件によっては意見が寄せられないということもあるが、基本的には市のパブリックコメントのやり方に準じて行っているということをご理解いただきたい。</p>	
コンサル	<p>アンケート結果については、第3回協議会でも説明している通りであり、検証結果は資料に掲載している。回収数が少ないものについては信ぴょう性が低く検証の必要性があるが、高齢者・保護者・市民アンケートについては、回収数が多く、信ぴょう性があると捉えている。</p>	
関野委員	<p>数が取れているからという問題ではない。例えばアンケートを提出していない層がアンケートに答え、一つの回答に集中した場合、結果が大きく変わる。発表するのなら、パーセンテージがこうだからではなく、何人がこう答えている、一方で答えていない事も考慮すべき。データ収集が終わった、と言っていたがアンケートのみで終わっていて実際足を使っの調査はされていないのではないか。現実を全く無視した状態である。アンケートは無記名なので、市に優勢な意見しか集めていない可能性もある。届かない、どうせやってくれないと思っている方はアンケートなどには時間を割かない。アンケートのみで、足で調査せずに決めつけることには危険性を感じる。</p>	
瀬下会長	<p>アンケートの取り方についてはご意見としては承った。</p>	
平林委員	<p>1000人のアンケートよりも10人のヒアリングが大事だと思う。アンケートの答えの中からどういう思いが反映されているのか、そこを使うのが行政だと思う。行政側も努力して進めていきたい。</p>	
瀬下会長	<p>ご意見として承った。</p>	
4 その他	事務局	<p>次回の協議会は5月13日金曜日の午前10時からを予定している。</p>
5 閉会		